

令和5年6月定例会一般質問

通告5

質問 防災について

答弁 体験型の情報発信・防災意識の向上に努めます

1 番 平山 光生 議員

【質問：平山 光生 議員】

1 番、平山光生でございます。防災について質問させていただきます。

現在、地域防災計画を改定に向け見直している最中であり、いろいろな情報を収集していると思いますが、大規模災害となったときに最も有効なのは、町民自ら備える防災備蓄と防災組織となってくると思います。

しかし、津波の被害がない我が町は、何度か大きな地震を経験しましたが、避難生活や復興に関する情報が少ないため、災害に危機感を持ちながらも行政だよりとなっていてしまっています。一部町内会で炊き出し訓練を行ったり、避難訓練を行ったりしていますが、実際に中標津町が備蓄、保管しているものを試したことがある方はどのくらいいるのでしょうか。避難所用の資材はどんなものがあるのか、自宅にどんなものを備えておけば避難所で活用できるのか、文字の一覧表や完成写真では想像がつかない方が多いです。

広報中標津でも、防災知識の普及に努めているとは思いますが、もっと身近に体験できるようなものは考えていますでしょうか。町長の考えをお聞かせください。

【答弁：町長】

平山議員御質問の防災について御答弁申し上げます。

議員御指摘のとおり、大規模災害が発生したときには、町などの行政機関も被災するので、全ての被災者を迅速に支援することが難しくなることから、平時から自分自身を守るため自ら災害に備えていただくことや町内会などの自主防災組織での防災訓練に参加していただくことは、とても重要なことであります。

このため、町では広報誌をはじめ、出前講座、防災訓練、その他の啓発活動を通じて、災害に対する家庭での備えなどの防災知識の普及、啓蒙に努めているところでありまして、令和4年度においては実際に備蓄品や防災資機材を使用した避難訓練を1町内会及び防



災学習として市街地の小学校1校と実施をしたところであります。

また本年度においても、2町内会への出前講座や1町内会と協力した防災訓練、小学校2校、中学校1校への防災学習を予定しているところであります。

今後は町が発信する防災情報につきましても、より具体的で活用しやすいものとなるよう努めるとともに、出前講座や防災訓練等の場におきましては、可能な限り備蓄品や防災資機材を体験できるよう、その実施内容を工夫してまいりたいと考えております。

また町が主催し、本年8月と9月に開催する地域防災リーダー養成講座においても、御家庭で備えていただきたい防災用品などを実際に用意し体験していただくことで、受講した防災リーダーを通じた普及啓発にもつなげてまいります。

さらに役場ロビーなどで展示を予定し、一般来庁者への啓発を推進するなど、あらゆる場面をとらえ、体験型の情報発信に努め、さらなる防災意識の向上に努めてまいりますので、御理解を賜りたいと思います。

【質問：平山 光生 議員】

再質問させていただきます。

体験型の情報発信をはじめ、本年度の町内会の出前講座や防災訓練、学校への防災学習を通じて、備蓄品や防災資機材を体験できるように工夫していただけるということで理解いたしました。実際に避難所として運営される場所で、段ボールベッドやテントなどの体験をしてみること、他の地域の災害にどのようなものが支給され、どのような日々を過ごしたのか、行政が情報収集、安否確認をどのように実施するのか、町内会などの自主防災組織で何ができるのか、あわせて展示することが町民の意識を高める最も有効なことだと考えます。

特に優先となる安否確認については、各被災地でも最も時間を要し、重要課題とされている事項であります。現在議会では、情報共有や安否確認に緊急連絡網安否確認システムオクレンジャーを活用しており、先日、全員協議会において、安否確認の実習も行いました。通信障害に強いだけでなく、個人の状況を選択して送信するだけという簡単な操作で、事務局が議員全員の安否確認を行うことが出来ていました。

当町が利用しているLINE公式アカウントを活用した企業向け安否確認サービスの提供をしている企業もあります。少しでも早く町民の安否確認を行うためには、メールやファクス以外の災害に強い安否確認サービスの導入が必要と考えますがどのようにお考えでしょうか。

【答弁：町長】

再質問にお答え申し上げます。

災害時の安否確認ということでありまして、今後必要になってくるであろう分野のことですけれども、インターネットを活用した先駆的な取り組みでありますね。こういったものをしっかり研究しながら、今後に備えたいというふうに考えております。以上であります。